

平成29年9月12日(火)

老球の細道356号

今年もスタート「トップアスリート」教室

会津バスケットボール協会 室井 富仁

散歩コースの田園地帯の稲穂が黄金色に輝き、謙虚であれと稲穂が頭を垂れながら教えてくれる。農道には大好きなピンクのコスモスが老眼を癒してくれる。健康を自覚しながらも明日の人間ドックに不安を覚え自ら病人と化す小さい秋この頃、会津バスケットボール協会秋の風物詩「バスケットボール・トップアスリート教室」が先日スタートした。

日曜日の16時から18時までの2時間、12月まで全10回にわたって行われる。坂下高校で始めた初期の頃は中学3年生が中心に参加してくれた。その中から高校に進学し、インターハイ出場や国体県選抜選手などに育ってくれた選手もいた。しかし、最近は中学3年生は受験勉強があるからと敬遠したり、親、先生などから制限されて少ない。その代わりに高校生やミニバスの子どもたちがたくさん参加してくれるようになった。

10日(日)第1回目には80名以上の参加者と13名の指導者、そして多くの保護者で盛り上がった。今年のテーマは「1:1 オフェンス」と「チームオフェンスファンダメンタル」である。これらのテーマを世界基準で、ファンダメンタルを土台にしながら段階的に指導したいと思っている。ミニから高校生まで幅広いカテゴリーの選手たちが参加しているが基本は同じ。難しいスキルであればあるほどミニの段階でやっておけばスムーズに習得できる。コーチ陣もすべてのカテゴリーから集まってくれているので心強い。

指導スタッフのコーチ陣には、知らない選手たちを指導しながらコーチングスキルを勉強してほしいと思う。特に「フィードバック」である。スキルが正しくできているかどうかを1回ごとに声をかけてやる。大きな声で「OK!」「オスプレイ!メスプレイ!ナイスプレイ!」などとジョークを交えながら、できれば笑顔で、ハイタッチなどしながら。

普段指導されないコーチから指導を受けることは、選手にとってはとても良い刺激になると思う。コーチによってはよそのコーチから指導されることを嫌がる人もいるが、広い気持ちで広い世界を経験させるよう指導してもらいたいものである。

開講式では松井会津協会会長が参加者に「会津バスケットボール協会4つのお願い」を話した。①バスケットボールを楽しむ②基礎を身につける③色々な運動を経験する④学業、日常生活にもがんばる。また、星強化委員長から「練習への取り組み方」を伝えられた。①正しい習慣を身につける②新しいことへの挑戦する③「できる」と「わかる」の両立。

オール会津のスタッフで取り組むこの行事は この地区の強化にとって必ず役に立つと信じている。会津地区全体で皆で上手になろう、皆で育てよう、皆で勉強しようという風潮が地区のレベルを上げ、よその地区の中学や高校などに進学しなくても地産地消で十分満足のいくバスケットボール環境を作り上げるのではないだろうか。

人口400万の東欧の小国「セルビア」はバスケットボール強国である。バスケットボールをプレイする者に「やる気」のない者はいないと言われている。だからコーチは「やる気をおこさせる」コーチングは不必要。ただひたすら上手に、強くなるコーチングをすればいいという。今回のアスリート教室第1回目もそれに似たような雰囲気終了した。

「何ごとも、正しい方法であきらめることなく挑戦、実行を続ければ、新しい地平が開けるだろう」(朝日新聞社説)。陸上100メートルの桐生祥秀選手が先日教えてくれた。